

製品名: カスパーゼ 4 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07973**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	45kDa

抗原情報

遺伝子名	CASP4
別名	CASP4; ICH2; Caspase-4; CASP-4; ICE(rel)-II; Protease ICH-2; Protease TX
遺伝子 ID	837.0
SwissProt ID	P49662
免疫原	抗血清はヒトカスパーゼ 4 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 75-124

背景

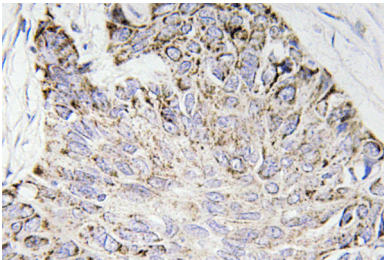
この遺伝子は、システイン-アスパラギン酸プロテアーゼ（カスパーゼ）ファミリーに属するタンパク質をコードしています。カスパーゼの連続的な活性化は、細胞アポトーシスの実行段階において中心的な役割を果たします。カスパーゼは、プロドメインと大小

のプロテアーゼサブユニットからなる不活性なプロ酵素として存在します。カスパーゼの活性化には、保存された内部アスパラギン酸残基におけるタンパク質分解処理が必要であり、これにより大小のサブユニットからなるヘテロ二量体酵素が生成されます。このカスパーゼは、自身の前駆体タンパク質だけでなく、カスパーゼ 1 前駆体も切断・活性化することができます。この遺伝子が過剰発現すると、細胞アポトーシスが誘導されます。選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする転写産物バリエーションが生成されます。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、触媒活性: P1 位にアスパラギン酸が厳密に必要。優先切断配列は Tyr-Val-Ala-Asp-| ですが、Asp-Glu-Val-Asp-| も切断します。機能: アポトーシス誘導を担うカスパーゼの活性化カスケードに関与する。カスパーゼ 1 を切断する。PTM: 2 つのサブユニットは、自己触媒機構またはカスパーゼ 8 による切断によって前駆体配列から誘導される。類似性: ペプチダーゼ C14A ファミリーに属する。類似性: 1 つの CARD ドメインを含む。サブユニット: 小さなサブユニットと大きなサブユニットからなる 2 つのヘテロダイマーが逆平行に配列したヘテロテトラマー。組織特異性: 広く発現しており、脾臓と肺で最も高い発現を示す。心臓と肝臓では中等度の発現、骨格筋、腎臓、精巣では低い発現を示す。脳には存在しない。

研究分野

-

画像データ



パラフィン包埋ヒト肺癌組織におけるカスパーゼ-4 抗体の免疫組織化学分析。